

学 校 評 価

R 5 . 1 2 . 2 0 (水) 集計

回答数

教職員 31名

児童 547名

保護者 316名

① 【楽しく学校生活を送っている】

*そう思う, だいたい思うの割合 (%)

教職員	児童	保護者
100	91	96

- ・教職員, 児童, 保護者とも高い割合で子どもは学校生活を楽しんでいると感じている。
- ・児童の割合が二者に比べて低くなっている。学習や生活の進め方が自分に合っていないと感じたり, 友達関係で困り感をもっている子どもも少なくない。児童観察をしっかりとしていきたい。

② 【あいさつ・温かい言葉遣いができている】

*そう思う, だいたい思うの割合 (%)

教職員	児童	保護者
84	92	93

- ・本校では, 「あいさつ日本一」を合言葉に, あいさつ運動に取り組んでいる。「石小笑顔委員会」のメンバーを中心とした朝のあいさつ, 素晴らしいあいさつをした子を賞賛する活動などで元気なあいさつができるようになってきている。そのため, できていると感じている児童, 保護者の割合が高くなっていると思われる。
- ・二者と比べて教職員の割合が低くなっているのは, あいさつ運動の場だけでなく, 自発的にあいさつがで

きる子になってほしい，よく考えず悪い言葉を使ってしまう子もいるなどの理由が考えられる。あいさつに加え「あったか言葉」を使っていける指導を継続したい。

⑦【先生によく理解され，公平な評価をされている】

*そう思う，だいたい思うの割合（％）

教職員	児童	保護者
100	91	94

⑧【みんなに大切にされている】

*そう思う，だいたい思うの割合（％）

教職員	児童	保護者
100	91	95

⑩【子どもや保護者の相談に積極的に応じている】

*そう思う，だいたい思うの割合（％）

教職員	児童	保護者
100	92	92

・教員の児童理解と公平な評価，仲間づくり，保護者対応，児童の相談への対応の項目については，教職員，児童，保護者とも高い肯定的評価を示している。

相談を受けた教員は，子どもにしっかり話を聞いたり，調べたりした後，保護者にきちんと報告している。学年団で対応を話し合ったり，管理職に相談したりしてよりよい解決を目指している。

・すぐに解決しがたい問題があったり，成果が上がりにくい問題もあつたりするが，真摯な態度で対応を続けたい。

③【読書の習慣が身についている】

*そう思う，だいたい思うの割合（％）

教職員	児童	保護者
61	58	42

・ボランティアの方々による「おはようお話し会」や、「れいんぼう」お話し会での本に親しむ活動を長年継続して行っている。学校では，いつも身近に本を置いて，隙間時間に読書を

している子どもも多い。しかし、家庭ではなかなか本を手にする時間がないのだろう。保護者の評価が低いのはそのためと思われる。

- ・本好きで読書冊数も多い子どもと、自分からは本をあまり読まない子どもの二極化が進んでいる。読書の楽しさを味わう活動を継続し、読書習慣がつくような指導をしていく。

⑤【決まった時間家庭学習をしている】

10×学年（分）

*そう思う、だいたい思うの割合（％）

教職員	児童	保護者
81	76	64

- ・宿題の内容を、家庭学習時間が達成できるように見直しているが、36％の保護者は家庭学習をあまりしていないと感じている。

- ・宿題は提出しても、そのやり方には問題がある子どももいる。文字をきれいに書いたり、自分で調べたりして、ていねいに課題を仕上げるように指導する。

- ・引き続き宿題の出し方の見直しを行い、家庭学習の仕方を保護者にも知らせ、連携して指導する。

④【学習用具の準備ができている】

*そう思う、だいたい思うの割合（％）

教職員	児童	保護者
87	87	78

- ・教員、児童の評価に比べて、保護者の評価が厳しめである。

- ・図画工作科や生活科で必要なものはかなり前もって知らせるようにしているが、

間際でないと思われない家庭もあると考えられる。連絡帳の確認をお願いしたり、自分で伝えられるように子どもにも指導したりする。

⑩【学校や子どもの様子がよくわかる】

教・・・家庭によくわかるように伝えている

児・・・学校からのお便りを渡している

保・・・学年通信やホームページを通じて子どもの様子がよくわかる

*そう思う、だいたい思うの割合（％）

教職員	児童	保護者
90	88	74

- ・担任は、連絡帳や電話等で、子どもの頑張りなどを伝えているが保護者の評価は厳しめである。
- ・毎月配布している学年通信は、保護者へのお願いやお知らせが多くなっている。学校生活を伝える工夫がいる。